

呉市立横路中学校 総合的な学習の時間学習指導案

単元名：地域とわたしⅡ ～地域の課題から自己の生き方を考える～

指導者 大田 勝

- 1 日時 令和3年10月27日(水) 4校時(11:50~12:40)
- 2 学年 第2学年4組(男子17名, 女子16名, 計33名)
- 3 場所 2年4組教室
- 4 単元について

【単元観】

本学年の生徒は1年時に自分たちの住む「地域調べ」に取り組み、ゲストティーチャーの講話を聞いたり図書館の文献を調べたりするなどさまざまな方法で情報を収集し、新聞やポスターにまとめたり、発表したりする活動をしてきた。また、「進路学習」では働くことの意義を考え、職業調べや将来の自分の適性やライフプランを考えるなど自己を見つめ直す学習をした。

2年時の学習は地域の課題を解決するために、主体的・協働的に他者と学び合う活動を通して、地域のために何ができるかを考え、地域・社会に貢献しようとする態度を育て、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することをねらいとしている。

本単元においては、仮想の会社をつくり、SDGsの視点から、地域の課題解決のために、視野を広げて多角的に課題解決の方法を考え、根拠を基に、自分の意見を筋道立てて考えさせる。また、小学校5年時での「くれ」に関する地域学習の取り組みから繋がる課題として、地域の発展に関わり、社会参画する意識を高めることができると考える。

【生徒観】

本学級の生徒は、総合的な学習の時間に意欲的に取り組む生徒が86%、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている生徒が80%と高い意識をもっている。一方で、課題を解決するために必要な情報を自分で集めることができる生徒が72%、自分から課題を見付け進んで課題を解決しようとしている生徒が61%、根拠を示しながら自分の考えを説明している生徒が54%と低くなっている。

これらのことから、総合的な学習の時間には意欲的に学び合いの活動に取り組もうとする意識は高いが、課題に対して情報の収集方法や取捨選択などの活動が他者任せになる傾向があると考えられる。さらに、根拠を示しながら自分の考えを説明する論理的思考力に課題があると言える。

【指導観】

指導にあたっては、本中学校区の研究主題「論理的思考力の育成」に向けて、以下の点を工夫し「学び合い」のある授業づくりを目指していく。

まず、主体的な学びとなるように「地域の課題解決のために自分たちに何ができるだろうか。」という単元全体を通しての課題を設定する。SDGsを視点に、地域の課題を見付け、自分たちにできることを考え、班ごとに仮想の会社を立ち上げ地域の課題解決に向けて活動内容を考えさせる。【課題設定の工夫】

課題の解決に向けて「ふるさと呉市の課題解決につながるのか」をポイントに、より良い解決策を模索するために、集団思考では3~4人の班で次のように思考ツールを活用していく。

- 1 情報の整理・分析では、班で調べた情報を共有し、Yチャートや座標軸などで比較、分類していく。
- 2 企画の検討ではテーマについて、ウェビングでアイデアを広げ、企画アイデアシートに記入する。
- 3 実現可能な会社を選ぶために、根拠を基にクラゲチャートを使い筋道を立てて考えさせる。

課題解決に向けて多様な解決方法があり、個人思考から集団思考へ問題を共有し、協働で学び合うことで、よりよい解決策へと展開できることを気付かせたい。また、根拠を基に様々な意見を出し合うために、互いの意見が伝えやすい場面設定や他者の意見を尊重する態度を育成することも大切である。【学び合いのある授業展開】

5 単元の目標

- 地域に存在する問題の解決に向けて、他者と協働で取り組むことが必要であることを理解する。
- 地域の課題をSDGsの視点から明らかにし、解決方法を見いだすことができる。
- 自分の考えや他者の意見も価値あるものとして生かしながら協働で学び合うことができるようにする。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 知識・技能	イ 論理的思考力	ウ 主体性
① 地域に存在する問題の解決に向けて、他者と協働で取り組むことが必要であることを理解している。 ② 課題の解決に向けて、多様な方法で、情報を収集することができる。 ③ 地域の課題解決のための学習が、自分たちの生活と将来への生き方に深く関わっていることを理解することができる。	① 地域の課題をSDGsの視点から明らかにし、解決方法を見いだしている。 ② 必要な資料や情報を取捨選択して、内容を整理・分析してまとめ、課題解決に向けて考えている。 ③ 調査結果や活動内容を効果的な手段を選択して表現している。	① 地域の課題解決が自らの将来に関わることに気付き、自分の意志で探究活動に取り組もうとしている。 ② 自分の考えや他者の意見も価値あるものとして生かしながら協働で学び合おうとしている。

7 指導と評価の計画 (全20時間)

次	時	過程	学習活動	評価規準	評価方法
一	1	課題の発見	○ 理想的な未来とはどんな世界か。自分たちが住みたいと思う社会を想像させ、これから取り組む地域の課題解決に向けて今後の活動への見通しをもつ。	イ① ウ①	行動観察 ワークシート
	2 3		○ SDGsについて資料や動画を用いて学ぶ。 ○ 自分たちの生活の中でどのようなことがSDGsにつながるか考える。	ア①	行動観察 ワークシート
	4 5		○ ゲストティーチャーからSDGsを視点に社会での実際の取組や、会社のSDGsに関わる活動について話を聞く。質疑応答により今後の取組の参考にする。	ア① ウ①	行動観察
	6		○ 呉市の歴史と発展・現状について学習し、呉市の発展した理由や現在までの変遷を理解する。	ア②	行動観察 ワークシート
二	7 8	情報の収集	○ さまざまな方法で呉市の課題や問題点を調べる。	ア② ウ①	行動観察 ワークシート

二	9	整理・分析	○ 思考ツールを使い呉の課題や問題点をSDGsの視点から関連付け比較・分類する。(Yチャート, 座標軸)	イ① ウ②	行動観察 ワークシート
	10		○ クラスで課題を比較し根拠をもって精選し, 班(3~4人・8~9班)で課題解決するテーマを決める。 ○ 会社を立ち上げるためにテーマについて具体的に計画を立てる。	イ② ウ②	行動観察 ワークシート
三	11	整理・分析・表現	○ SDGsを視点に何ができるか思考ツールを使って会社の内容を考える。	イ①	行動観察
	12		○ 考えた内容を会社の企画書としてまとめる。	イ③	行動観察 ワークシート
	13		○ まとめた内容を効果的に伝えるために, どのように工夫したらよいか考える。	イ③	行動観察 ワークシート
	14 15		○ 会社の発表のために要点を絞って画用紙にまとめる。	イ③ ウ②	行動観察
	16	実行	○ 班で考えた会社の内容をクラスで発表する。	ウ①	行動観察
	17	整理・分析	○ 発表した会社の内容をクラス全体で共有して, 各会社の「ふるさと呉市の課題解決につながるのか」をポイントに整理する。	ア③ ウ②	行動観察
	18 本時		○ 各班の会社の情報を個人で整理・分析する。 ○ 考えたことを班の中で交流して, 「くれの課題解決」につながる会社を精選する。 ○ 班で選んだ会社を根拠を示して発表する。	イ① ウ②	行動観察 ワークシート
	19		まとめ・振り返り	○ 各班の会社の掲示用のポスターを制作する。	イ② ウ②
20		○ 全体発表の準備, 発表練習をする。 ○ 単元の振り返りをする。	ア③ ウ②	行動観察 ワークシート	

8 本時の学習(本時18/20)

(1) 本時の目標

思考ツールを活用して交流し, 「くれの課題解決」につながる会社を, 精選することができる。

(2) 評価規準



地域の課題をSDGsの視点から明らかにし, 解決方法を見いだしている。

【論理的思考力(思考・判断・表現)】

自分の考えや他者の意見も価値あるものとして生かしながら協働で学び合おうとしている。

【主体性(主体的に学習に取り組む態度)】

(3) 学習展開

	学習活動	指導上の留意点 (○) 「努力を要する」状況と判断される児童への手立て (●)	評価規準 (評価方法)
課題設定	1 本時の目標を確認する。	○ 前時に発表した内容を振り返り、本時の学習のゴールがイメージできるように、学習内容を説明する。 ○ 前時でプレゼンした会社の内容をまとめたものを準備しておく。 ● ロイロノートで各班の会社の内容を振り返らせる。	
		めあて 根拠をもとに「くれの課題解決」につながる会社を選ぼう。	
個人思考	2 個人で考える。 	○ プレゼンの会社の内容を思考ツール (Yチャート・座標軸) で「SDGsの視点」と「くれの課題解決」につながる内容で分類・比較させる。 ○ 「くれの課題解決」につながる会社を選択させる。 ● 机間指導しながら思考の手助けをする。	イ① 地域の課題をSDGsの視点から明らかにし、解決方法を見いだしている。 【論理的思考力 (思考・判断・表現)】 (ワークシート)
集団思考	3 班で交流する。 伝え合い 学び合い①  根拠を示す	○ 個人で考えた内容を班で共有して、協働して推薦する会社を精選させる。 ● グループ内で全員が意見を言えるようにあらかじめ順番を決めてさせておく。 ○ グループの意見を融合させて、会社を精選させる。 ○ 根拠をもとに選んだ理由を考えさせる。	ウ② 自分の考えや他者の意見も価値あるものとして生かしながら協働で学び合おうとしている。 【主体性 (主体的に学習に取り組む態度)】 (行動観察)
	4 発表する。 学び合い②	○ 各班で精選した会社を根拠を明らかにして発表させる。 ○ 発表者に質問や意見を求めさせる。 ○ 班で交流した内容から、多様な考えがあり、学び合いで、よりよいものになることに気付かせる。	
振り返り	5 振り返りを書く。 振り返りの例	○ 本時を振り返り、発表内容から感じたことを発表させる。 ○ 「ふりかえりポイント」②・⑦で学習を振り返らせ、ワークシートに振り返りを記入させる。 ② 大切だと思ったこと ⑦ 感じたこと・思ったこと 個人で考えるよりも、班の話し合いや、他の班の意見から考えが広がった。一つの問題を解決するためにはさまざまな分野がからんでいると感じた。また、個人でも生活の中でSDGsを意識する必要があると思った。	

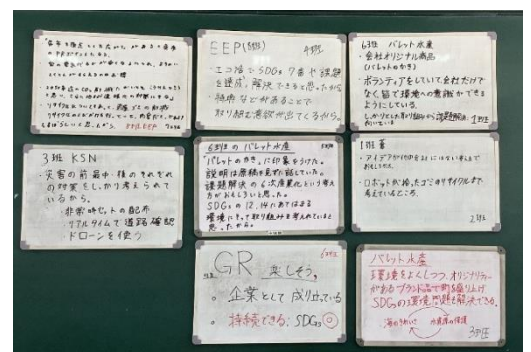
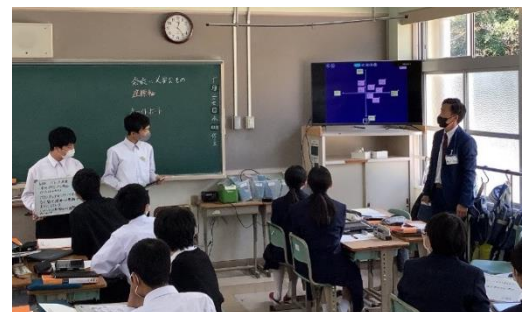
【単元で育成を目指す資質・能力に係る成果と課題】

生徒は「単元を貫く問い」を意識して、ゴールを目指して学習に取り組んでいた。さらに知的好奇心をもって授業に参加し、話し合いの中で活発に意見を出し合っていた。また、地域の課題が自分たちの生活と将来への生き方に深く関わっていることを理解しながらプロジェクトを選ぶ姿も見られた。この学習を自分たちの問題と捉えながら考えることで、地域の課題解決に向け、他者と協働で取り組むことが必要であることを理解することができた。 【知識・理解】



本授業の評価規準「地域の課題をSDGsの視点から明らかにし、解決方法を見いだしている。」については、環境に配慮した形での水産業の在り方を提案するなど、思考ツールやロイロノートを用いて自分の考えをまとめることができていた。 【論理的思考力】

「自分の考えや他者の意見も価値あるものとして生かしながら協働で学び合おうとしている。」については、批判的な意見に注目し、多面的な見方から新たな考えが生まれることに気づき、協働しながら学び合おうとする姿が見られた。また、生徒の発言の中で「プロジェクトの内容が良くても、結局はプレゼンの仕方選ばれてしまうのはおかしいのではないか。」という問題提起があった。この発言で、プロジェクトの内容を効果的に伝えられなければ、選ばれることはないことに気づき、探究活動に取り組む姿も見られた。 【主体性】



このやりとりから、これからは自分の思いや考えを表現し、分かりやすく伝える力を高めていく指導がより一層必要である。そのためには、「自分はこうしたい」という思いをもたせることやそれを効果的に表現していくことを、日常的に取り入れて積み上げていくことが大切である。また、相手を納得させる理由を述べるために、論理的に考える場面をさまざまな授業で仕組んでいくことが必要である。